CONTENTS

目次

広島大学医学部地域医療システム学講座

実績報告書 平成30、令和元年度

広島大学



1	活動と成果の概要	. 1
2	講座スタッフ	. 2
3	ミッションごとの活動と成果の詳細 ミッション① 地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会(啓発活動):ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象	· З
	ミッション② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 23
	ミッション③ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 31
	ミッション④ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 35
4	添付資料 (ア)5年生地域医療実習優秀レポート	. 36

5付資	資料	
(ア)	5年生地域医療実習優秀レポート	3
(イ)	ふるさと枠入学案内パンフレット	4
(ウ)	講座のホームページ	5
(エ)	広島県地域医療支援センター広報誌	5

ETTO14号

1 活動と成果の概要

当講座は、以下の4つのミッションを果たすため平成22年度に広島県の寄付講座として広島大学医学部に 開設されました。

①地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会(啓発活動)

●ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に 勤務する医師、地域住民等を対象

②地域医療課題の調査・研究

●地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

③地域医療課題への対応

- ●地域医療に求められる医療人(医師)養成・育成システムの立案・実施など
- ④地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援
 - ●広島県地域医療センターが行う業務に対する技術的助言・協力等

平成 30 年および令和元年度の 2 年間で各ミッションに対して以下のような活動を行い、成果を得ました。

- ①広島大学医学部ふるさと枠の学内における制度運営、およびふるさと枠に所属する約120名の学生の教育をおこないました。ふるさと枠学生の毎週の勉強会、春・夏・冬の実習や合宿を企画・実行し、地域医療への理解の促進と仲間意識の醸成を行っています。また一般医学科生への教育については、5年生全員を県内中山間地の病院に一週間派遣する地域医療実習の運営を行いました。約240名にこの実習を行い、ほぼ100%が地域医療をよりよく知ることができたと評価し、4分の1以上の学生について将来地域医療に従事する意向が増加しました。現地指導医のためのFDも毎年開催しました。その他、1年生、3年生、4年生、6年生への講義、3年生、4年生の社会医学実習、4年生の医学研究実習等も担当しました。
- ②医師の地理的分布に関する研究等を行い、論文が国際誌に掲載されました [原著 13 報 (筆頭著者 5 報)、他 11 報 (筆頭著者 4 報):合計インパクトファクター 40.585]。また全国の大学地域医療関連講座の教員が加盟している全国地域医療教育協議会の「地域枠出身医師のコホート研究」の本部として文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議と共同しながら実施しております。これら研究に対して研究代表者として計5件の科学研究費補助金および民間研究助成を受けました。その他分担研究者として厚生労働科学研究費、文部科学研究費を受給しました。
- ③平成25年度に作成した「広島大学ふるさと枠卒業医師に係るキャリアプラン」を、知事指定診療科追加に伴い令和元年度に改訂しました。またキャリアプランの周知および各診療科への訪問を行い、ふるさと枠出身者の配置に関する原則の確認、情報の共有を行いました。当講座スタッフが広島県医療対策協議会およびふるさと枠医師等配置調整ワーキンググループ会議の委員を務め、ふるさと枠医師の中山間地医療機関への配置調整も行いました。
- ④広島県地域医療支援センターの医監を当講座スタッフが兼務し、同センターおよび広島県と緊密な連携を取りながら、ふるさと枠制度の運営、地域医療セミナーの共同開催等を行いました。また広島県へき地医療支援機構運営会議、若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県地域保健対策協議会医師確保対策専門委員会、同協議会在宅医療介護連携推進専門委員会の委員を当講座スタッフが務めました。また広島市在宅医

療・介護連携推進委員会の委員長、在宅医療の推進方策専門委員会、ICTの活用方策の検討専門委員会、 在宅医療摂食嚥下口腔ケア専門委員会、専門職及び市民に対する ACP の普及・啓発の検討委員会の委 員も当講座スタッフが務めました。

2 講座スタッフ



教授 松本 正俊



講師 石田 亮子



助教 吉田 秀平

事務

國広 鮎実

守中 和子

ミッションごとの活動と成果の詳細

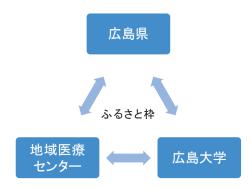
ミッション①

地域医療の教育並びに実習・研修の指導、講演会(啓発活動): ふるさと枠を中心とした医学部医学科生や初期研修医、後期研修医、地域の医療機関に勤務する医師、地域住民等を対象

A ふるさと枠の運営・教育

広島県、広島県地域医療支援センター、広島大学医学部の連携により、ふるさと枠入学者の教育、ふるさと枠制度の運営を行っております。以下の教育プログラムを提供しております。

ふるさと枠を支える仕組み

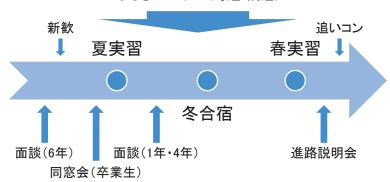


ふるさと枠の教育プログラム

目的	プログラム		内容	1年	2年	3年	4年	5年	6年	卒後
地域医療	ふるセミ		毎週or隔週(1-3年は必須)	0	0	0	0			
	おおん	夏	医療現場体験(1泊:必須)	0	0	0	0			
マインド	マインド セミナー	冬	合宿でのグループワーク等(1泊:必須)	\circ	\circ	\circ	\circ			
		春	医療現場体験(1泊~3泊:希望者)	0	0	0	0			
広島定着	個人面談		進路指導、研修先相談、入局相談	0			0		0	0
	説明会		臨床研修制度説明				\circ	\circ		
			配置手順、キャリアパス説明	0	0	0	0			0
	情報交換		同窓会·意見交換会							0

年間スケジュール

ふるさとセミナー(毎週/隔週)



①地域医療研究会(ふるさと枠セミナー:通称ふるセミ)

講座開設直後の平成22年4月より昼食をとりながらふるさと枠1~4年生全員でミーティングをしています。隔週あるいは毎週一回行っています。ふるさと枠制度のオリエンテーション、キャリアプランの説明、知事指定診療科の説明、自治医大卒の女性医師による講演会、医療面接の実習、実技の実習、臨床知識のミニ講義、現地実習のための準備、地域医療をテーマとした話し合いなどを行っています。ふるさと枠学生の将来への不安解消、モチベーション維持、アイデンティティーの確立、仲間意識の醸成につながるよう心がけています。活動内容は学生代表を中心に幹部学年(3年生)が相談して決めており、当講座教員および広島県地域医療支援センターも適宜提案を行います。当講座スタッフは顧問役として常時参加いたしました。1~3年生の平均出席率は94%でした(4年生は自由参加)。

~前期スケジュール~

今年度前期の目標は、「<u>学年を超えて、関係を深めよう」</u>です。

同じ班の人とたくさんおしゃべりして、仲良くなりましょう!

4/10(水)	学部長挨拶・全体写真撮影
4/17(水)	夏実習の説明/自己紹介
4/24(水)	英国の家庭医による特別公演
5/8(水)	医療に関するクイズ
5/15(水)	松本先生よりふるさと枠制度の説明
5/22(水)	コミュニケーションについて
5/29(水)	各科について
6/5(水)	石田先生・吉田先生のお話
6/12(水)	医療ドラマについて
6/19(水)	医療手技
6/26(水)	夏セミナー施設紹介(29 より)
7/3(水)	夏セミナー班で打ち合わせ

※5/1(水)はお休みとなりますので、注意してください。

スケジュールは変わることもあるかもしれません。変更があれば連絡します。 毎回、お弁当を出します。

※欠席するときは<u>理由を添えて各学年の学年代表まで連絡</u>するようにしてください。欠席が続くと地域医療システム学から呼び出し・面談があります。

この他、 5月24日 に新入生歓迎会を予定しています。

また、**夏の実習は8月19~22日、冬の合宿は12月26~27日**の予定

となっています。詳しい日程は追って連絡しますので、スケジュールを空けて おいてください。

※26 年度入学生、27 年度入学生、28 年度入学生の方は自由参加とします。

何かわからないことがあったときは

<u>@hiroshima-u. ac. jp</u>(3年)まで連絡してください。

~後期スケジュール~

今年度後期の目標は、「学年を超えて、関係を深めよう」です。 同じ班の人とたくさんおしゃべりして、仲良くなりましょう!

10/9(水)	顔合わせ・ゲーム
10/16(水)	3年生による企画
10/23(水)	ふるさと枠キャリアプランについて
11/6(水)	3年生による企画
11/13(水)	3年生による企画
11/27(水)	知事指定診療科(病理診断科)について
12/4(水)	冬合宿説明会・出欠確認
12/11(水)	女性医師と義務年限について
1/8(水)	春合宿説明会
1/15(水)最終回	2年生による企画

※後期は所々、お休みとなりますので、注意してください。

スケジュールは変わることもあるかもしれません。変更があれば連絡します。 毎回、お弁当を出します。

※欠席するときは理由を添えて各学年の学年代表まで連絡するようにしてください。欠席が続くと地域医療システム学から呼び出し・面談があります。

この他、3月中旬に追いコンを予定しています(日程は調整中)。

また、**冬の実習**は 12 月 26・27 日に行う予定となっています。

スケジュールを空けておいてください。

※26 年度入学生、27 年度入学生、28 年度入学生の方は自由参加とします。

何かわからないことがあったときは

<u>@hiroshima-u. ac. jp</u>(3年)まで連絡してください。























②夏季実習 (地域医療セミナー)

毎年夏季休暇中に本講座、広島県、(財)広島県地域保健医療推進機構、広島県国民健康保険診療施設協議会の共催で地域医療現地実習を行いました。本実習は、多くのふるさと枠学生にとって、1年間で最も思い出に残る行事として人気の高い実習です。

平成30年8月20日、21日、22日、23日 県内中山間地及び島嶼部の医療機関18カ所で泊まり込みの実習を行いました。参加者は1~4年生の本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など97名で、約4名ごとに分かれて各医療機関に向かいました。現場での学びに加えて、先生方と夕食を共にする中で地域医療に対する思いを伺うことができた、大変貴重な実習となりました。最終日は大学に集合して実習報告を行い、地域医療について学んだことを共有しました。優れた報告プレゼンテーションを表彰いたしました。実習後の評価では95%の学生が将来の中山間地勤務に肯定的な回答をしていました。

※参加者

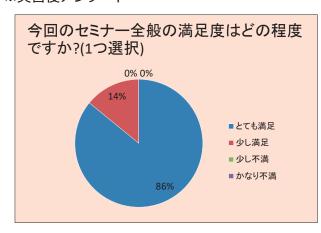
学年	自治医科大学	広島大学	ふるさと枠	岡山大学		市町奨学生	
子平	日心区科人子	広島県コース	岡山県コース	地域枠	宗突子主	工个头[[[[[]]	
1 年 生	3人	18人	2人	0人	0人	0人	
2 年 生	2人	18人	1人	2人	0人	0人	
3 年生	1人	19人	2人	0人	1人	0人	
4 年 生	3人	17人	1人	1人	2人	0人	
小 計	9人	72人	6人	3人	3人	0人	
合 計						93人	

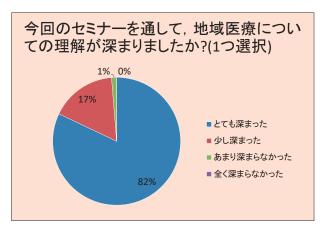
※その他 広島大学医学部医学科 1 名、広島大学医学部保健学科看護学専攻 3 名

※実施医療機関一覧 (県内 18 医療機関)

	診療所	コー ス	病院	コース
区分	医療機関名	所 在	医療機関名	所 在
西部	吉和診療所	廿日市市	安芸太田病院	安芸太田町
[전 라	雄鹿原診療所	北広島町		
	円山医院	大崎上島町		
	田村医院	大崎上島町		
南部	森本医院	呉市		
	南海診療所	東広島市		
	はたのリハビリグループ	広島市		
東部	大和診療所	三原市	公立みつぎ総合病院	尾道市
	瀬戸田診療所	尾道市	沼隈病院	福山市
	甲奴診療所	三次市	庄原赤十字病院	庄原市
北部	総領診療所	庄原市	西城市民病院	庄原市
	作木診療所	三次市	神石高原町立病院	神石高原町

※実習後アンケート

















令和元年8月19日、20日、21日、22日 昨年同様に県内中山間地及び島嶼部の医療機関17カ所で泊まり込みの実習を行いました。1~4年生の本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など88名が参加しました。約4人1組の小グループを25班編成し、予め各班で実習内容を企画して、各医療機関を訪問しました。最終日は大学に集合して各班の実習報告を行い、学んだことを共有しました。優れた報告プレゼンテーションを表彰しました。実習後のアンケート調査の結果、99%の学生が地域医療についての理解が深まったと回答しました。

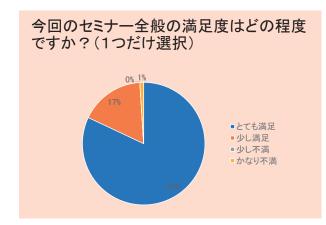
※参加者

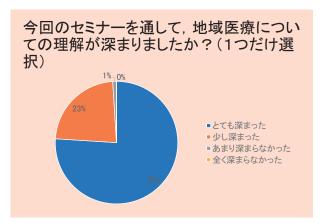
学年	自治医科大学	広島大学だ 広島県コース	ふるさと枠 岡山県コース	岡山大学 地域枠	県奨学生	市町奨学生
1 年 生	3人	18人	2人	2人	0人	0人
2 年 生	2人	17人	1人	0人	0人	0人
3 年生	1人	18人	1人	2人	0人	0人
4年生	1人	18人	2人	0人	0人	0人
小 計	7人	71人	6人	4人	0人	0人
合 計						88人

※実施医療機関一覧(17 医療機関)

	診療所	コース	病院	コース
区分	医療機関名	所 在	医療機関名	所 在
西部	吉和診療所	廿日市市	安芸太田病院	安芸太田町
전 라	雄鹿原診療所	北広島町		
	森本医院	呉市		
南部	円山医院	大崎上島町		
	南海診療所	東広島市		
	大和診療所	三原市	公立みつぎ総合病院	尾道市
東部	瀬戸田診療所	尾道市	沼隈病院	福山市
			府中市民病院	府中市
	甲奴診療所	三次市	庄原赤十字病院	庄原市
北部	作木診療所	三次市	西城市民病院	庄原市
	総領診療所	庄原市	神石高原町立病院	神石高原町

※実習後アンケート





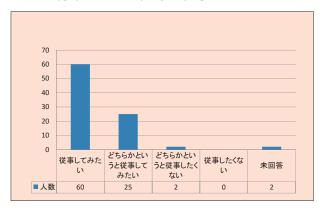


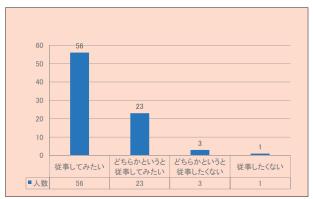






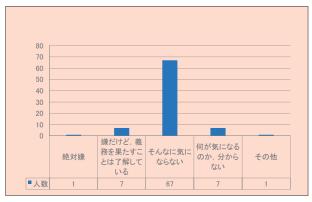
地域医療セミナー後アンケート あなたは将来、へき地医療に従事してみたいですか?



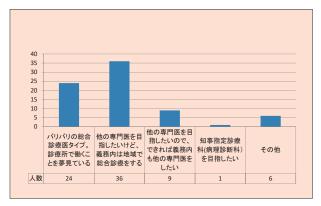


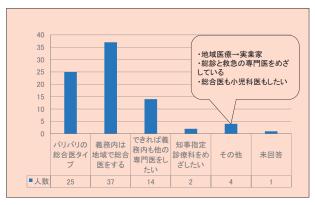
義務があることに関して、どのように考えていますか?





今、自分が目指している方向性に近いものは?





③冬季実習(冬合宿)

本講座と(財)広島県地域保健医療推進機構の共催で毎年冬期休暇中に合宿勉強会を行っています。

平成30年12月26日、27日「YMCAコンフォレスト湯来」にて、一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、広島県奨学生(岡山大学学生、島根大学学生、愛媛大学学生)81名でした。初日は庄原市立西城市民病院院長郷力和明先生による「ともに生きる」という講演会を開催しました。高齢化が進む西城町での地域医療が果たす役割として、生活を含めた患者さんとの関わり、点ではなく面の医療を心がけること、というお話に、皆熱心に聞き入っていました。続いて、ふるさと枠第1期卒業生で、庄原赤十字病院循環器科に勤務されている板倉(現大澤)文乃先生に、学生時代のお話、ふるさと枠出身医師として勤務する思いなどについてご講演頂きました。グループワークでは、目指す医師像、そのために学生時代に必要なことなどについて、熱心に意見交換をする姿が見られました。

2日目は、「The Island」という映画を鑑賞した後、クローンを利用した医療についてどう考えるかについて話し合いました。













令和元年度は、12月26日、27日にかんぽの郷庄原で合宿を行いました。参加者は1~4年生のふるさと枠生、広島県奨学生(岡山大学学生、島根大学学生)71名でした。初日は庄原赤十字病院院長中島浩一郎先生に、「私が地域医療に携わるまで。そして現在の地域医療の一形態(地域医療連携推進法人)」と題してご講演頂きました。庄原市唯一の総合病院であり「地域医療の砦」とし医療に取り組む同病院では、多くのふるさと枠出身医師が活躍しています。参加した学生にとっては、将来のキャリアを考える上でも重要な医療機関の一つであり、皆熱心に中島先生のお話に耳を傾けていました。そして、全国に先駆けて設立された「備北メディカルネットワーク」について学んだ後、複数の病院が1つの法人になるメリットについて、学生同士で話し合いました。

次に、ふるさと枠第3期卒業生で、市立三次中央病院産婦人科で勤務しておられる張本姿先生に「産婦人科の魅力~私の進路選択~」というタイトルで、産婦人科を選択したプロセスについてご講演頂きました。学生からは「医師としての将来像がイメージできた」「どのように診療科を選択したのか、悩みも含めて詳しく聞けて良かった」という感想がありました。夜の懇親会には、中山間地域の医療機関でご活躍されている先生方もご参加下さり、和やかな雰囲気の中でお互いの親睦を深めました。

2日目は映画「きっと、星のせいじゃない」を鑑賞した後、大切な人を病気で亡くす側の立場や、死との向き合い方などについてグループで話し合いをしました。













④春季実習

毎年春季休暇中に泊まり込みの現地実習を行っています。春季実習は希望者のみの参加としています。

令和元年 2 月中旬~3 月中旬、計 13 名が $1 \sim 2$ 名ずつ医療機関を訪問し 1 泊 2 日の実習をさせていただきました。施設ごとに特徴的なプログラムを作成していただきました(ご協力いただいた施設:公立みつぎ総合病院、雄鹿原診療所、安佐市民病院、庄原赤十字病院、森本医院、百島診療所)。

令和2年2月下旬~3月中旬、計21名が前年同様に実習をさせて頂きました。事前に各施設の担当医師と相談しながら実習内容を計画しました。少人数ならではの充実した実習となりました(ご協力いただいた施設:公立みつぎ総合病院、雄鹿原診療所、安佐市民病院、庄原赤十字病院、百島診療所、瀬戸田診療所)。

⑤個別面談

平成30年度、令和元年度とも、ふるさと枠の1年生、4年生全員に対し、学生2名と教員2~3名が昼食を伴にする形式で面談を行い、学業のこと、大学生活のこと、将来の進路のことなどを話し合いました。6年生については一人一人について個別面談を行い、臨床研修病院の選び方やその後の進路のことなどを指導・相談しました。また、平成30年度は、ふるさと枠卒業生の女性医師のうち希望があった9名の勤務先を訪問し、当講座石田と地域医療支援センターの女性職員1名による個別面談を実施しました。現在困っていることや、将来の進路や生活のことなどを話し合うことができました。令和元年度は、希望者に随時個別面談を行いました。

6 臨床研修説明会

平成30年12月18日および令和元年12月19日、4年生(希望者)、5年生(全員)に対して臨床研修説明会を開催しました。臨床研修マッチング制度に関する説明、およびふるさと枠学生が研修病院を選ぶ際の注意点の説明を行いました。

⑦ふるさと枠医師意見交換会・同窓会

平成30年8月18日、広島大学において第1回ふるさと枠医師意見交換会を開催し、18名の参加がありました。制度の説明、各々の近況報告、グループに別れた交流会、教員による個人面談を行い、臨床研修医については入局の希望調査も行いました。会の終了後は同窓会を行い、久しぶりに会うメンバーで盛り上がりました。

令和元年7月6日、広島県医師会館において第2回ふるさと枠医師意見交換会を開催し、面談のみの参加者を含めて35名の参加がありました。制度の説明、各々の近況報告の後、グループに分かれて広島県健康福祉局医療介護人材課職員・広島県地域医療支援センター職員・教員と面談を行いました。終了後は場所を移動して同窓会を開き、22名の参加者と楽しく過ごしました。各地で活躍する卒業生の成長を頼もしく感じました。





⑧岡山大学医学部医学科地域枠広島県コース学生面談

平成31年2月19日、広島県健康福祉局医療介護人材課職員・広島県地域医療支援センター職員・教員が岡山大学を訪問し、地域枠広島県コースの学生と面談し、広島県における義務履行の説明を行いました。

⑨ふるさと枠卒業生へのキャリア支援

広島県、広島県地域医療支援センター、広島大学医学部と連携し、ふるさと枠卒業生へのキャリア支援を 行っております。詳細は「ミッション③ 地域医療課題への対応:地域医療に求められる医療人(医師)養成・ 育成システムの立案・実施など」をご参照ください。

⑩ふるさと枠の学生確保

広島県および広島県地域保健医療推進機構と共同し、ふるさと枠の学生確保のための各種対策を行っています。具体的には受験生確保のための高等学校訪問、高校生向けのパンフレット作成(毎年更新)、広島大学オープンキャンパスへの参加、ふるさと枠キャリアプラン作成のための学内外の調整を行っています。

⑪ふるさと枠学生の学業成績および義務履行支援

また、順調に進級し卒業できるよう、ふるさと枠学生全員の個別面談を行ったり、個別相談を受け入れたりなど、きめ細かな指導を行っています。平成21年度の制度開始から令和元年度に至るまで奨学金返還者は0名(卒前・卒後含む)であり、医師国家試験の合格率も一般医学科生を上回る結果となっております。

さらに平成29年度から令和元年度まで3年連続で広島大学医学部学生表彰受賞者(医学科首席卒業者) をふるさと枠広島県コースから輩出しております。

卒業後は各自専門を磨きつつ、広島県内の公的医療機関において勤務しております。令和2年度は卒後3年目以上ふるさと枠医師52名中、21名が中山間地の公的医療機関に勤務しており、7名が知事指定診療科に従事しています。



ふるさと枠案内パンフレット

広島大学ふるさと枠入学制度(広島枠・岡山枠) 1 期生~入学者計 175 名のうち奨学金返還事例



医師国家試験合格状況(平成27~令和2年度)

	広島大学医学部医学科	ふるさと枠(広島・岡山)		
のべ受験者	750	93		
のべ合格者	681	89		
合格率	90.8%	95.7%		

広島大学ふるさと枠広島県コース出身医師の勤務先

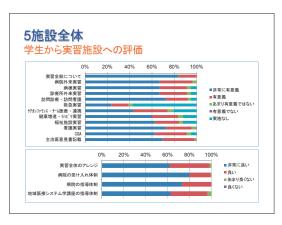
			R1	R2年度配置					
区分		勤務先機関	(R2. 3)	合計	H26卒 (配置4年目)	H27卒 (配置3年目)	H28卒 (配置2年目)	H29卒 (配置1年目)	備考
		三次中央病院	7	8		4	2	3	
中	中堅	庄原赤十字病院	5	5		2	3		
山	病院	みつぎ総合病院	1	1	1				
間地		JA吉田総合病院	1	1	1	1	1	1	
域	中小病院	安芸太田病院	1	1	1		1		
		西城市民病院	1	_					
	計		16	21	3	7	7	4	
指定	病理	広島大学病院	2	2		2			
診	産科	広島大学病院等	3	5		2	1	2	三次中央病院への 配置1名を含む。
療科		計	5	7		4	1	2	
	その他	広島大学病院等 (9機関)	13	24	2	4	6	9	
		合計	34	52	5	15	14	18	大学院進学等を 含む。

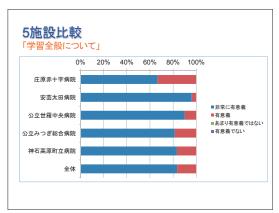
B一般医学科生の教育

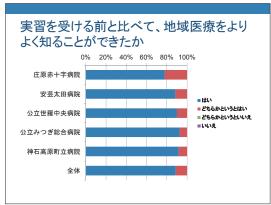
①5年生地域医療実習

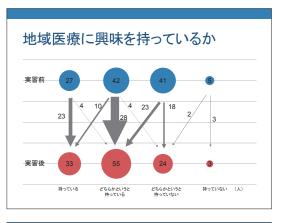
一般医学科 5 年生に対しては平成 22 年度よりクリニカル・クラークシップの一環として、中山間地の病院に一週間泊まり込みで行う地域医療実習を開始致しました。

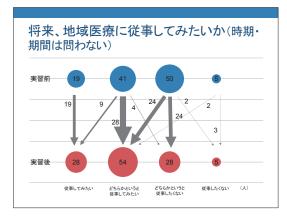
平成 30 年度は5年生約120名全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、文科省のモデル・コア・カリキュラムを参考に、各病院の特徴をだしたプログラムを作成しました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると30%が地域医療に興味が増し、30%が将来地域医療に従事する意向が増加しました

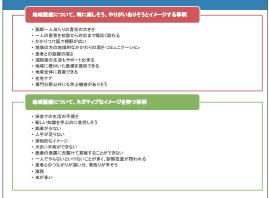




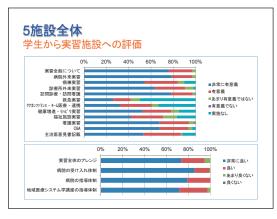


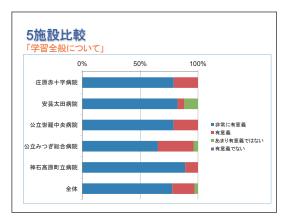


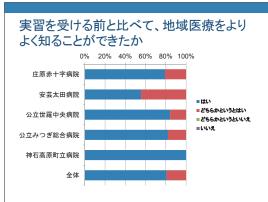


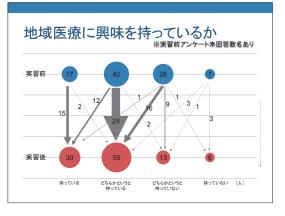


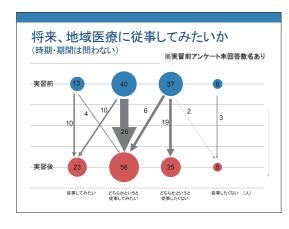
令和元年度も5年生全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、各病院にプログラムを実行していただきました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると35%が地域医療に興味が増し、20%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。

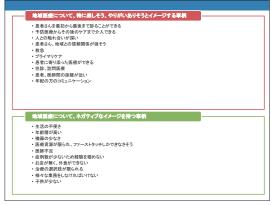












②6年生講義

平成 30 年度、令和元年度と臨床実践学において、地域医療、地域保健、介護保険に関する国家試験対策講義を松本が1コマ担当しました。

③ 4年生講義

平成 30 年度、令和元年度と臨床実習入門プログラムにおいて、地域医療実習に関する講義を松本が 1 コマ、吉田が 1 コマ担当しました。公立みつぎ総合病院の沖田光昭院長に地域包括ケアシステムに関する講義を 1 コマ担当いただきました。平成 30 年度、令和元年度と、石田、吉田は症候診断治療学のテューターを担当しました。

④3年生講義

平成 30 年度、令和元年度と器官・システム病態制御学において、松本は「医師需給と医師偏在について」 と題して医師の需給、偏在、諸外国の医療制度について講義を行いました。石田は「高齢化社会での在宅支援~介護・医療の視点から~」というタイトルで、学外から介護支援専門員(ケアマネジャー)に来て頂いて、介護保険制度や高齢者の生活の現状などについての講義を行いました。また愛媛大学地域医療学講座の川本龍一教授にお越しいただき、プライマリ・ケア、地域包括ケアシステム、愛媛県の地域医療の現状について講義していただきました。

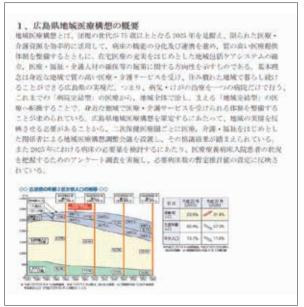
⑤ 1 年牛講義

平成30年度、令和元年度と医学科1年生を対象に竹内前教授が「高齢者医療における倫理」と題して 講義しました(客員教授として)。石田は「医療とコミュニケーション」というテーマで講義を行いました。

⑥ 4 年生社会医学実習

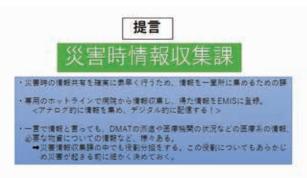
平成 30 年 4 月~ 5 月、医学科 4 年生 6 名を受け入れ、研究指導を行いました。「広島県地域医療構想」 と題して、広島県健康福祉局医療介護計画課、医療介護人材課、中国労災病院へのインタビューを行いました。その結果を踏まえ、地域医療構想に関する行政と医療現場との認識の違い、今後の方向性について考察、提言を行いました。





平成31年1月~2月、医学科3年生6名を受け入れ、研究指導を行いました。「広島の自然災害:対応と今後について」というテーマで、広島市医療政策課、広島県健康福祉局、広島市立安佐市民病院の専門家インタビューを行い、広島県の土砂災害、豪雨災害時の対応について調査を行いました。





⑦ 4 年生臨床実習入門プログラム

平成 30 年度、令和元年度の 4 年生臨床実習入門プログラムの採血実習、医療面接実習を当講座スタッフが担当しました。

⑧共用試験 OSCE

平成30年度、令和元年度、石田は学内評価者として参加しました。

⑨卒業試験 OSCE

平成30年度は石田、吉田が、令和元年度は石田が学内評価者として参加しました。

⑩ 1 年生医療行動学

平成 30 年度、令和元年度、医学科1年生を対象に医療行動学実習を4~5名ずつ2回実施しました。

患者受療行動や地域医療について話し合いました(石田、吉田)。

① 4 年生医学研究実習

平成30年度は2名の学生の担当講座となり、研究指導を行いました(10月~1月)。1名は在宅看取りに関する質的研究を行い、6名の医師に対してインタビュー調査を実施しました。もう1名は医師が街づくりに関わる影響を調べる質的研究を行い、7名の医師にインタビュー調査を実施

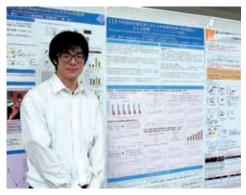




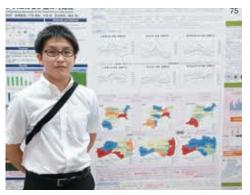
しました。後者は、2019年に実施された第10回日本プライマリ・ケア連合学会で発表を行いました。

令和元年度 (4月~7月) は 4名を担当し、1名は外来医師多数区域における新規開業制限が医師偏在に与える影響をシミュレーションしました。1名はへき地における医師確保に関する質的研究を行い、合計 15名の医師を含む医療関係者に対してインタビュー調査を行いました。1名は東日本大震災によって、心疾患・脳血管疾患・肺炎による死亡率がどのように変化したかを量的に調査した後、それらの結果を元に被災地で医療に関わっていた医師 3名にインタビューし、質的に解析を行う混合研究を行いました。もう 1名は医師の働き方に関する質的研究を行い、10名の医療従事者にインタビュー調査を実施しました。









C研修医教育

①広島大学病院の臨床研修医教育

令和元年10月より松本が広島大学病院卒後研修センター長(広島大学病院卒後臨床研修管理委員会委員 長)および広島大学病院臨床研修プログラム責任者を務めており、広島大学病院における臨床研修の制度運 営を行っております。また平成22年度より継続して広島大学病院総合内科・総合診療科の外来において、当 講座スタッフが指導医となり初期臨床研修医の外来教育を行っています。

②卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会

松本が平成元年度広島卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会の実行委員長を務めました。また平成30年度は同講習会タスクフォースを務めました。

D 学内での教授会および教育関連委員会

医学科会議、医学科企画会議、医学部長室会議、医学部教授会、医学教育センター運営会議に出席しました。また卒業 OSCE 実施委員会、試験制度改革委員会、医学科教育プログラム評価委員会の委員を松本が務めました。さらに分野別認証受審準備ワーキンググループのメンバーを松本が務め、広島大学医学部の日本医学教育評価機構(JACME)分野別認証受審に向けた準備を行い、受審当日(平成30年)はすべての領域別検討会議に出席しました。

E その他

①大学院講義

大学院修士課程の総合医療実践学特論において松本が「社会医学における地域格差 (Geographic analysis in public health)」を、医療政策・国際保健学概論において「医師の偏在 (Geographic distribution of physicians)」の講義を行いました。石田は「プライマリ・ケア領域における生活習慣病の管理 (Management of the life style related diseases in primary care)」の講義を 2 回に分けて行いました。吉田は大学院修士課程の総合医療実践学特論において「日本におけるプライマリ・ケアと家庭医療 (Primary Care in Japan and Family Medicine)」と「プライマリ・ケアにおける困難患者と患者複雑性 (The concept of patient complexity and difficult patient encounter in primary care)」の講義を行いました。

②地域医療に関する講演・啓発

令和元年度広島県国保診療施設協議会において「広島大学における地域医療教育について」の講演、啓発活動を行いました。

ミッション2

地域医療課題の調査・研究:地政学的特性や地域住民の受療行動の把握など

A 研究内容と成果

①地域枠出身医師の進路に関するコホート研究

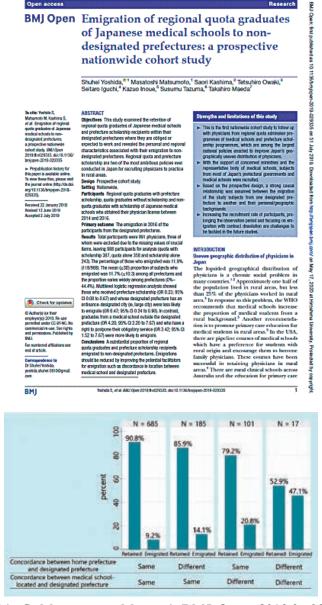
文部科学省、厚生労働省、全国医学部長病院長会議の協力のもと、全国地域医療教育協議会(全国の大学医学部地域医療関連講座が加盟)の「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部として、全国の大学医学部・医科大学に所属する地域枠学生、および都道府県の奨学金受給医学生の進路を追跡する研究を進めています。現在までに6か年分、2688名の地域枠医師・奨学金受給医師のベースラインデータを収集し、厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師調査」の個票データとリンクさせることで進路(特に地理的分布)をフォローアップしています。

令和元年度はこのコホート研究のデータから2報の原著論文を発表しました。まず、地域枠出身医師の非都市部勤務率が一般医師の非都市部勤務率に比べて有意に高いことを明らかにしました」。この論文は日本の地域枠制度の主たるアウトカムを定量的に示した初の学術成果であり、広島大学からプレスリリースされました。



Matsumoto M, et al. Acad Med 94(8):1244-1252, 2019およびそのプレスリリース

次に地域枠出身医師の都道府県外流出に関する要因も明らかにしました2。



Yoshida S, Matsumoto M, et al. BMJ Open 2019;9:e029335.

②全国医学部長病院長会議「地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会」

全国医学部長病院長会議「地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会」の委員を松本が務め、全国の大学医学部・医科大学、都道府県、地域医療支援センターに対してアンケート調査を行い。地域枠制度の現状に関するデータを収集いたしました。これは地域枠に関する横断調査としては現時点で最も包括的かつ精度の高いデータです。結果を毎年報告書としてまとめました。

③へき地における医師の高齢化に関する研究

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」の個票データを利用し、へき地の医療機関において医師の高齢化が急速に進んでいることを明らかにしました³。



Aging of hospital physicians in rural Japan: A longitudinal study based on national census



€ oren Access

Received: July 4, 1017

Accepted: May 17, 2018 Ochod-Livre 1, 2019

Abstract

Background

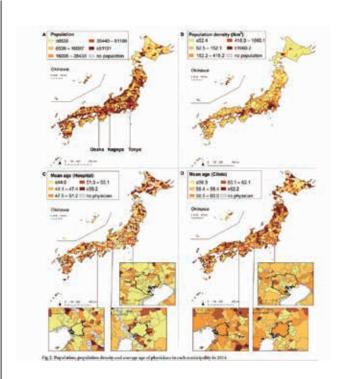
The diagrarity in the number of urban and rural physicians is a social problem in Japan. These may also be a disparity in the age of physicians. This study longitudinally exam-both geographic and age distributions of physicians.

Methods

Individual data been the Survey of Physicians, Derifists and Pharmacists in 1994, 2004 and 2014 and municipality data from the National Population Constas were used. The 2015 municipality border was applied to all years, and all municipalities were classified into equal size publis

Results

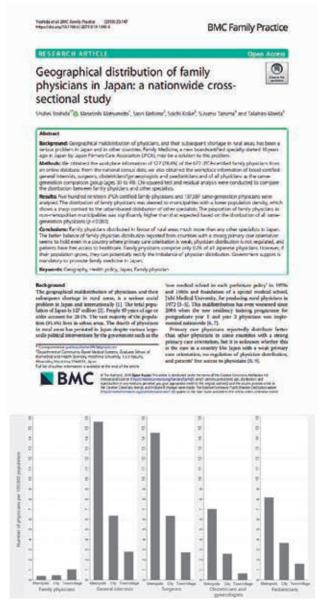
Ethereen 1994 and 2014, the number of physicians per 100,000 population increased by 33.8% in the most urbas group of municipalities and 17.4% in the most urbas group. The average age of physicians was highest in the most rural and lowest in the most strate group. The difference in average age between the vuber and rural physicians widered from 2.5 years in 1994 to 6.0 years in 2014. This departity is porticularly porcounced enough physicians (from 1.5 years in 1904 to 7.6 years in 2014), in the most rural group, the numb of thospital physicians younger than 40 years of the december 0.5 40 has grown by 150%, and the number of december 0.7 years of the year of those 55-00 has grown by 150%, and the number of december 0.7 years of the number of these 55-00 has grown by 150% and the number of the 19.3% between 2004 and 2014, while the ratios increased in other physicians.



Matsumoto M, et al. PLoS One 13(6):e0198317, 2018

④家庭医療専門医の地理的分布に関する研究

家庭医療専門医の就業地と他の専門医の就業地を比較し、家庭医療専門医が非都市部に強くシフトし た分布をとっていることを明らかにし、家庭医療や総合診療の専門医を増やすことが医師偏在是正に つながる可能性を示しました⁴。



Yoshida S, Matsumoto M, et al. BMC Fam Pract 20, 147 (2019).

⑤その他研究

専門医資格取得が医師の地理的移動に与える影響、高齢者の糖尿病に関する疫学研究、胃粘膜の黒点に関する症例対照研究、患者複雑性が医療者に与える負担に関する前向きコホート研究、ペットが悪性腫瘍と診断されることが飼い主に与える抑うつなどの感情に関する症例対照研究、高齢者の嚥下訓練に関するクラスターランダマイズド研究、嚥下や低栄養が日常生活に与える影響に関する横断研究を行い、それぞれ結果を論文として発表いたしました。

⑥長崎大学、広島大学合同リサーチカンファレンス

平成30年10月7日、長崎大学において長崎大学地域医療学分野、長崎大学総合診療科、当講座合同のリサーチカンファレンスを実施しました。松本が、地域枠コホートの進捗報告、今後の分析について発表を行い、吉田が地域枠出身医師の県外流出に関わる解析について発表を行いました。長崎大学からは離島住民を対象とした疫学研究の成果の発表がありました。大学の地域医療関連講座が行うべき研究の方向性やロジスティックスについて活発な意見交換を行いました。





B 2018-2019年度研究実績一覧 (2018-2019 年度合計インパクトファクター 40.585)

■ 原著論文

- 1. Hatano Y, Haruma K, Kamada T, Shiotani A, Takahari K, **Matsumoto M,** Uchida O. Factors associated with gastric black spot, white flat elevated mucosa, and cobblestone-like mucosa: a cross-sectional study. *Digestion* 98(3): 185-193, 2018
- 2. **Matsumoto M,** Kimura K, Inoue K, Kashima S, Koike S, Tazuma S. Aging of hospital physicians in rural Japan: a longitudinal study based on national census data. *PLoS One* 13(6): e0198317, 2018
- 3. Koike S, Matsumoto M, Kawaguchi H, Ide H, Atarashi H, Kotani K, Yasunaga H. Board certification and urban-rural migration of physicians in Japan. *BMC Health Serv Res* 18: 615, 2018
- 4. Wakabayashi H, Matsushima M, Momosaki R, **Yoshida S**, Mutai R, Yodoshi T, Murayama S, Hayashi T, Horiguchi R, Ichikawa H. The effects of resistance training of swallowing muscles on dysphagia in older people: A cluster, randomized, controlled trial. *Nutrition* 48, 111–116, 2018
- 5. Wakabayashi H, Matsushima M, Ichikawa H, Murayama S, **Yoshida S**, Kaneko M, Mutai R. Occlusal Support, Dysphagia, Malnutrition, and Activities of Daily Living in Aged Individuals Needing Long-Term Care: A Path Analysis. *J Nutr Health Aging* 22(1): 53-58, 2018
- 6. **Matsumoto M,** Kashima S, Owaki T, Iguchi S, Inoue K, Tazuma S, Maeda T. Geographic distribution of regional quota graduates of Japanese medical schools: a nationwide cohort study. *Acad Med*; 94(8): 1244-1252, 2019
- 7. Kashima S, Inoue K, **Matsumoto M**, Akimoto K. White blood cell count and C-reactive protein independently predicted incident diabetes: Yuport Medical Checkup Center Study. *Endocr Res* 44 (4): 127-137, 2019
- 8. Hatano Y, Araki A, **Matsumoto M,** Ishibashi S. Low hemoglobin A1c and low BMI are associated with dementia and ADL disability among Japanese nursing home diabetic residents. *Geriatr Gerontol Int* 19(9): 854-860, 2019
- 9. Yoshida S, Matsumoto M, Kashima S, Owaki T, Iguchi S, Inoue K, Tazuma S, Maeda T. The emigration of regional quota graduates of Japanese medical schools to non-designated prefectures:

- a prospective nationwide cohort study. BMI Open 9: e029335, 2019
- 10. Yoshida S, Matsumoto M, Kashima S, Koike S, Tazuma S, Maeda T. Geographical distribution of family physicians in Japan: A nationwide cross-sectional study. *BMC Fam Pract* 20: 147, 2019
- 11. **Yoshida** S, Matsushima M, Wakabayashi H, Mutai R, Sugiyama Y, Yodoshi T, Horiguchi R, Watanabe T, Fujinuma Y. Correlation of patient complexity with the burden for health-related professions, and differences in the burden between the professions at a Japanese regional hospital: a prospective cohort study, *BMJ Open* 2019; 9: e025176.
- 12. Nakano Y, Matsushima M, Nakamori A, Hiroma J, Matsuo E, Wakabayashi H, **Yoshida S,** Ichikawa H, Kaneko M, Mutai R, Sugiyama Y, Yoshida E, Kobayashi T. Depression and anxiety in pet owners after a diagnosis of cancer in their pets: a cross-sectional study in Japan. *BMJ Open* 2019; 9: e024512.
- 13. 小池創一、松本正俊、鈴木達也、寺裏寛之、前田隆浩、井口清太郎、春山早苗、小谷和彦. 医療計画におけるへき地医療に関する研究. 厚生の指標 67(5): 20-26, 2020.
- 14. Hatano Y, Inoue K, Kashima S, **Matsumoto M**, Akimoto K. Serum alanine transaminase as a predictor of type 2 diabetes incidence: the Yuport prospective cohort study. *Tohoku J Exp Med* 2020 in press

■ 総説論文、症例報告論文、研究レター等

- 1. Kimura K, Mizooka M, Migita K, **Ishida R, Matsumoto M,** Yamasaki S, Kishikawa N, Kawahara A, Kikuchi Y, Otani Y, Kobayashi T, Miyamori D, Ikuta T, Nakamura H, Yokobayashi K, Iwamoto S, Kanno K, Ohira H, Tazuma S. Five cases of familial Mediterranean fever in Japan: relationship with MEFV mutations. *Internal Med* 57 (16): 2425-2429, 2018.
- 2. 西田康朗, 菅野啓司, 宮森大輔, 頼島悠佳, 法西美果, 長坂早知, 浅野俊太郎, 辻直樹, 河原章浩, 木村一紀, 小林知貴, 石田亮子, 大谷裕一郎, 岸川暢介, 溝岡雅文, 田妻進:麻痺性イレウスを合併した帯状疱疹の1例. *廣島医学*, 71: 571-5, 2018.
- 3. 菅野啓司, 芹川正浩, 岸川暢介, 大谷裕一郎, 宮森大輔, 小林知貴, 菊地由花, **石田亮子**, 木村一紀, 河原章浩, 田妻進: 肝内結石症 特集 II/難治性の肝・胆道・膵疾患—最近の動向-1.消化器・*肝臓内科*, 3: pp623-630, 2018.
- 4. **松本正俊**: 地域医療の将来展望(2): 地域枠制度 *医学のあゆみ* 270(11); 1091-1093, 2019
- 5. Kobayashi T, Kanno K, Kikuchi Y, Kakimoto M, Kawahara A, Kimura K, Ishida R, Miyamori D, Otani Y, Kishikawa N, Tazuma S: An atypical case of non-asthematic eosinophilic granulomatosis with polyangitis finally diagnosed by tissue biopsy. *Intern Med*, 58: 871-5, 2019.
- 6. Kawahara A, Morioka T, Otani Y, Kanno K, Edahiro T, Fukushima N, Nagasaka S, Housai M, Kakimoto M, Tsuji N, Asano S, Kikuchi Y, Kobayashi T, Miyamori D, **Ishida R,** Kimura K, Kishikawa N, Mizooka M, Ichinohe T, Tazuma S: Successful Treatment of Acute Chest Syndrome with Manual Exchange Transfusion in a Patient with Sickle Beta+-thalassemia. A Case Report. *Intern Med*, 58: 1629-34, 2019.
- 7. Kashima S, Inoue K, **Ishida R, Matsumoto M,** Hatano Y, Akimoto K. Levels of fasting plasma glucose in non-hospitalized older people with high HbA1c levels. *J Diabetes Investig* 11(3):750-751, 2020.
- 8. 石田亮子,田妻 進:腹痛. わかりやすい疾患と処方薬の解説編集企画委員会編 わかりやすい疾患と処方薬の解説 病態・薬物治療編(アークメディア): pp698-699, 2018.

- 9. **吉田秀平**: 自験例として複雑性: PCAM 社会的処方 (臨床研究をすると臨床能力が向上するのか): *治療* 100(7); 807-810, 2018.
- 10. **吉田秀平**: EBM 草場鉄周監修、孫大輔編 総合診療専門医 ポートフォリオ実例集 pp.42-47 南山堂
- 11. **吉田秀平**: 簡便な患者複雑性評価尺度と入院日数の相関を明らかに: 臨床研究の道標 総合診療 各論 編 *Primaria* 34: 16-19, 2019

■ 著書

1. **松本正俊、**岡崎仁昭(責任編集) 日本医学教育学会地域医療教育委員会·全国地域医療教育協議会(監修) 地域医療学入門 診断と治療社 2019年7月

■ 競争的外部研究費獲得

代表研究者として

- 1. 平成 30年度~令和 4年度文部科学省科学研究費補助金「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究と エビデンスに基づく政策の提案」(基盤 C: 代表**松本正俊**) 429万円
- 2. 平成30年度ファイザーヘルスリサーチ研究助成(国内共同研究-年齢制限なし)(代表松本正俊)130万円
- 3. 平成30年度サタケ基金研究助成金(若手研究者による学術研究及びその成果の一般公開に係る助成)(代表**吉田秀平**) 30万円
- 4. 平成 31年度~令和 3年度科学研究費助成事業「西日本豪雨の介護保険サービスへの影響に関する後ろ向きコホート研究」(若手研究:代表**吉田秀平**) 416万円
- 5. 2019年度 医療経済研究機構(若手研究者育成研究助成)(代表**吉田秀平**) 100万円

分担研究者として

- 1. 平成 30年度文部科学省科学研究費補助金「新医師臨床研修制度は医師分布を改善したか -人口地理指標・診療科・施設からの分析」(基盤 C: 代表帝京大学井上和男、分担**松本正俊**)
- 2. 平成30~31年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「へき地医療の向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究」(代表自治医科大学小谷和彦、分担**松本正俊**)
- 3. 平成 30~ 31年度文部科学省科学研究費補助金(基盤 C)「6年制薬学教育および薬学部新設は薬剤師 分布を改善したか: 人口地理指標からの分析」(代表帝京大学安藤崇仁、分担**松本正俊**)
- 4. 平成 30年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「ニーズに基づいた専門医の養成に係る研究」(代表自治医科大学小池創一、分担**松本正俊**)
- 5. 平成 31~ 33年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究)「医師の専門性を考慮した勤務実態を踏まえた需給等に関する研究」(代表自治医科大学小池創一、分担**松本正俊**)

■ 報告書

- 1. 全国医学部長病院長会議(AJMC) 調査委員会(**松本正俊**他 9 名): 平成 29 年度地域枠入学制度と地域医療支援センターの実情に関する調査報告 AJMC 発行 2018
- 2. 全国医学部長病院長会議(AJMC) 調査委員会(**松本正俊**他 9 名): 平成 30年度地域枠入学制度と地域 医療支援センターの実情に関する調査報告 AJMC 発行 2019

■ 学術誌編集

2010年から学術誌 Rural and Remote Healthのアジア地区編集長(Asian Regional Editor) を松本が務め、

アジア地区からの投稿論文の採否決定を行っています。また 2016年から日本プライマリ・ケア学会の英文誌 Journal of General and Family Medicineの編集委員(Associate Editor) も松本が務めており、委員長の徳田安春先生と供に投稿論文の採否を決定しています。

■ 招待講演

- 1. **松本正俊**: 広島大学における地域医療研究: 概要と将来展望 長崎大学、広島大学合同リサーチカンファレンス(長崎市) (平成 30年 10月 7日)
- 2. **松本正俊**: 広島大学および全国の地域枠教育の現状 第 4回地域枠医師のキャリア形成ワークショップ(徳島市)(平成 30年 11月 25日)
- 3. **松本正俊**:広島大学における地域医療教育について 第 51回日本医学教育学会シンポジウム(京都市)(令 和元年 7月 26日)
- 4. **松本正俊**: 広島大学における地域医療教育について 広島県国民健康保険診療施設協議会令和元年度 医師等確保対策研究協議会(広島市)(令和元年7月31日)
- 5. 吉田秀平: 地域枠出身医師の進路に関するコホート研究(長崎市) (平成 30年 10月 7日)
- 6. **吉田秀平**: 概念モデルと PECO 第 6回東京慈恵会医科大学 -琉球大学 臨床研究ワークショップ(西原町) (令和元年 3月 2-3日)
- 7. **吉田秀平**: リサーチクエスチョンまでの道: 情報の獲得と収集 第4回総合診療セミナー(東京都)(令和元年 6月 29日)
- 8. **吉田秀平**: 3rd session 琉球大学臨床研究インテンシブフェローシップ (西原町) (令和元年 10月 5-6日)
- 9. **吉田秀平**: リサーチクエスチョンの育て方 Tottori Research Workshop 2019 (米子市) (令和元年 11 月 6日)

■ 学会発表

- 1. **吉田秀平**: 機能的 /伝達的 /批判的ヘルスリテラシーと multimorbidityの関連調査: 多施設共同横断研究 第 9回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(津市) (平成 30年 6月 16日)
- 2. **松本正俊、**大脇哲洋、井口清太郎、井上和男、前田隆浩: 地域枠出身医師と都道府県奨学金受給医師の国家試験合格率と義務順守率について 第50回日本医学教育学会(東京)(平成30年8月4日)
- 3. **Matsumoto M,** Kashima S, Regional Quota Cohort Study Group. Geographic distribution of regional quota graduates of Japanese medical schools: a nationwide cohort study. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019, Kyoto, Japan, May 16, 2019
- 4. Yoshida S, Matsumoto M, Regional quota Cohort Study Group. The emigration of regional quota graduates of Japanese medical schools to non-designated prefectures: a prospective nationwide cohort study. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019, Kyoto, Japan, May 16, 2019
- 5. **吉田秀平**: 初期臨床研修医の地域医療研修における診療所外来診察時間の変化に関する後ろ向きコホート 研究 第10回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(津市) (令和元年 5月 18日)
- 6. **松本正俊**: 地域枠出身医師の地理的分布と指定都道府県からの流出について: 全国コホート研究 第 78回日本公衆衛生学会総会(高知市)(令和 1年 10月 24日)
- 7. **松本正俊、**宮森大輔、田妻進、漢方教育研究グループ: 多施設による Webテストを用いた漢方教育の標準化への試み 漢方医学教育 SYMPOSIUM 2020(東京) (令和 2年 2月 8日)

■ 座長、司会等

1. 松本正俊: 第17回日本病院総合診療医学会学術総会(岐阜市)(平成30年9月16日)(座長)

- 2. Matsumoto M. WONCA Asia Pacific Regional Conference 2019, Kyoto, Japan, May 16, 2019(座長)
- 3. 松本正俊: 広島市かかりつけ医等在宅医療推進研修会(広島市) (令和元年 12月7日) (座長・司会)
- 4. **松本正俊**: 令和元年度第 1回全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会(東京都)(令和元年12月21日)(座長・司会)
- 5. **松本正俊**: 令和元年度第 2回全国医学部長病院長会議地域枠制度についての意見交換会(東京都)(令和 2年 2月 15日)(座長・司会)
- 6. **松本正俊**: World Health Summit in Hiroshima 2018(広島市)(平成 30年 10月 6日)、World Health Summit in Hiroshima 2019(広島市)(令和元年 8月 31日)、(座長)
- 7. 石田亮子: 第71回 広島医学会総会 ポスター演題 (広島市) (平成30年11月11日) (座長)

■ 社会における活動

- 1. 松本正俊、石田亮子: 広島大学附属高等学校 模擬授業 「医学部を目指す皆さんへ」 (広島市) (平成 30年 6月 28日、令和元年 6月 21日)
- 2. **吉田秀平**: World Health Summit in Hiroshima 2018 「Current status of Japanese primary care and development of measuring tool for medical complexity in Japan」(広島市)(平成 30年 8月 6日)
- 3. **石田亮子**: Clinical Lipid Seminar「糖尿病と中性脂肪」(興和創薬株式会社主催)(広島市)(平成 30 年 2月 2日)
- 4. **石田亮子**: 広島大学病院 初心者・研修医のための KAMPO Study Seminar 「初心者のための漢方講座 ~総合診療医の立場から~」 (広島市) (平成 30年 11月 27日、令和元年 11月 26日)
- 5. **石田亮子**: World Health Summit in Hiroshima 2019 「Ideal working environment for clinicians in Japan」(広島市)(令和元年 8月 31日)

ミッション③

地域医療課題への対応:地域医療に求められる医療人(医師)養成・育成システムの立案・実施など

①知事指定診療科の追加

広島県からの要請により、ふるさと枠医師の知事指定診療科として従来からの病理診断科に加えて令和2年3月に産婦人科を追加しました。追加にあたって当講座が窓口となり、広島県健康福祉局医療介護人材課、本学産婦人科学講座、本学医学部との協議を重ねました。

②ふるさと枠キャリアプランの改訂

知事指定診療科の追加に伴い、「ふるさと枠キャリアプラン」を令和2年3月に改訂しました。ふるさと枠 医師はこのキャリアプランに沿って配置されます。

③ふるさと枠医師等キャリア支援委員会および広島県医療対策協議会

平成30年度、ふるさと枠医師および県奨学金受給医師の配置に関する決定を行う「ふるさと枠医師等キャリア支援委員会」およびそのワーキンググループの委員を松本が務めました。ワーキンググループでは、中山間地医療機関診療科別病院別配置要望リストとふるさと枠キャリアプランに基づきふるさと枠医師本人と所属医局が相談のうえ作成した配置素案について、全県的視野で不整合部分を調整し、配置原案を作成します。委員会ではこの配置原案について審議し、配置案として決定します。令和2年度にはワーキンググループは「ふるさと枠医師等配置調整ワーキンググループ会議」と名称を変え、キャリア支援委員会は医療法改正に伴い「広島県医療対策協議会」に包含されましたが、引き続き松本が委員を務めました。

4)ふるさと枠制度およびキャリアプランの説明会

定例のふるさと枠セミナーのうち2回を使って、ふるさと枠制度の概要およびふるさと枠キャリアプランの説明を行いました。同時に、義務履行中の育児休業の扱いについても説明を行いました。

⑤知事指定診療科の説明会

定例のふるさと枠セミナーのうち1回を使って、知事指定診療科である病理診断科の紹介を行いました。 平成30年度は病理学講座の神原貴大先生(ふるさと枠OB)、令和元年度は分子病理学講座の城戸綾先生 に講演いただきました。

⑥女性医師の義務年限の過ごし方説明会

定例のふるさと枠セミナーのうち1回を使って、女性医師の義務年限の過ごし方、義務履行中のワークライフバランスについて、義務を終了された自治医科大学卒業女性医師に講演をいただきました。平成30年度は公益財団法人放射線影響研究所疫学部の定金敦子先生、令和元年度は株式会社Peace産業医事務所代表取締役の岡本和子先生にお越しいただきました。

⑦診療科(医局)訪問

キャリアプランを基にしたふるさと枠卒業生の配置手順について、ふるさと枠出身入局者のいる診療科(医局)を中心し個別訪問し、説明を行いました。令和元年度は21の医局を訪問しました。また同様の目的で JA 廣島総合病院も訪問しました。

⑧医学部 FD

5年生の臨床実習Iにおける地域医療実習の質向上を目的として毎年 Faculty Development (FD) として地域医療実習連絡会議を行っています。

平成31年3月8日に開催したFDでは5年生の地域医療実習の協力病院の院長、指導医の先生方にお集まり頂き、各種報告や具体的な方略あるいは教育目標などについて検討しました。実習学生の優秀レポートの選定も行いました。(ご出席いただいた施設:安芸太田病院、庄原赤十字病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院、神石高原町立病院、寺岡記念病院、雄鹿原診療所)。

令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響で集会形式での FD は中止しました。実習学生からのアンケート、選定した優秀レポートについてメールで回覧しました。

9全国地域医療教育協議会

全国の大学医学部・医科大学の地域医療関連講座によって組織されている全国地域医療教育協議会にお

いて平成 29 年度から松本が世話人を務めています。教員の資質向上に関する事業や調査研究を実施しており、地域医療教育や地域枠に関する最新の情報交換を行っています。本協議会が実施する「地域枠出身医師の進路に関するコホート研究」の研究本部は広島大学に置かれ、松本が中心となって進めています。また令和元年度に本協議会と日本医学教育学会が合同で監修したコアカリ対応標準テキスト「地域医療学入門」(診断と治療社)の編集責任者を自治医科大学岡崎仁昭教授と松本が務めました。



⑩日本医学教育学会

平成28年度より日本医学教育学会「地域医療教育委員会」の委員を松本が務めています。地域医療教育に関するシンポジウムや、上記教科書作成などの企画に関わりました。

(1)全国医学部長病院長会議地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会

平成27年度より全国医学部長病院長会議地域における医師養成の在り方に関する調査実施委員会の委員を松本が務めています。定例の委員会活動に加えて毎年全国の大学地域医療関連講座や行政関係者にお集まりいただき「地域枠制度についての意見交換会」を実施しており、松本が実行委員および当日の司会を務めています。平成30年度は平成31年2月23日に東日本ブロック、平成31年3月14日に西日本ブロックの意見交換会を行いました。令和元年度は令和元年12月21日に医師多数都道府県ブロック、令和2年2月15日に医師少数都道府県ブロックの意見交換会を実施しました。

(12)中四国地域医療フォーラム

当講座主催で平成31年2月9日に第9回中四国地域医療フォーラムを開催しました。中四国9大学の地域枠学生・卒業生、大学教員、県、地域医療支援センターの代表者が一同に会し、地域枠制度についての情報交換を行うものです。平成22年に第一回を広島で開催し、以後各大学の持ち回りとなっておりました。この度再度広島大学がホスト役として準備を行い、松本が司会進行を務めました。秀道広医学部長および広島県の田中剛健康福祉局長にもご参加いただきました。

第9回 中四国地域医療フォーラム



令和2年2月8日、岡山大学の主催で第10回中四国地域医療フォーラムが行われ、石田、吉田が参加しました。

13日本プライマリ・ケア連合学会

広島市で開催される第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 (令和2年7~8月オンライン開催)の実行委員会に松本(プログラム委員長)、石田、吉田が入り、開催に向けた準備を行いました。また松本、石田、吉田が本学会の中国ブロック代議員を、研究支援委員を吉田が務めました。令和2年3月より本学会の研究グランドデザイン作成プロジェクトが創設され、吉田がプロジェクトメンバーとして活動しています。



ミッション4

地域医療体制確保のための県内医療機関等に対するコーディネート業務と支援:広島県地域医療支援センターが行う業務に対する技術的助言・協力等

①広島県地域医療支援センター

広島県地域医療支援センターの医監を松本、石田、吉田が務めております。夏季、冬季および春季休暇における地域医療セミナーの当講座との共同開催、ふるさと枠卒業生の配置調整業務、ふるさと枠同窓会、ふるさと枠キャリアプラン更新作業などに深く関与しました。またセンターが独自に行っているドクターバンク事業への助言、女性医師支援事業への協力なども行いました。センターが開催する若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県へき地医療支援機構運営委員会などの委員を松本が務めました。

②広島県地域保健対策協議会(地対協)

広島県地域保健対策協議会(地対協)の医師確保対策専門委員会内科ワーキング会議、在宅医療介護連携推進専門委員会の委員を松本が務めております。

③広島県における地域包括ケア体制の確保

広島市在宅医療・介護推進委員会委員長、および在宅医療の推進方策専門委員会、ICTの活用方策の検討専門委員会、在宅医療摂食嚥下口腔ケア専門委員会、専門職及び市民に対するACPの普及・啓発の検討委員会の委員を松本が務めております。

④中山間地医療機関への診療支援

地域医療実習受け入れ機関である庄原赤十字病院、神石高原町立病院、安芸太田病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院の外来診療の応援を週1~2回行いました(外来実習指導を兼ねて)。また神石高原町立病院の夜間当直支援(毎週火~水曜日)、三次市立作木診療所の外来診療応援(毎週金~土曜日)を行いました。